

ふるさと歴史 アラカルト

岩国と珍魚（前編） マンボウ

独特な見た目を持つマンボウは、水族館などで見ることもできますが、普段なかなか見ることができない魚の一つではないでしょうか。今回は、江戸時代に岩国で発見されたマンボウについて紹介します。

『岩邑年代記』には「安永9（1780）年5月27日、通津浜に怪しい魚が流れ着いた。扇魚おうちまという。長さ9尺4寸（約2・8m）、幅8尺4寸（約2・5m）、厚さ3尺（約90cm）、灰色で全身がさめ肌、うろこはなく、クラゲを食べ、俗にアバラボウと呼ばれている」と書かれています。現在、アバラボウという別の種類の魚もありますが、書かれている特徴から、マンボウのことだと分かります。

『玖珂郡志』の室木村の部分では、天明8（1788）年6月18日、室木浦ヶ浜にあらがったことが書かれています。書かれている絵によると、長さ1丈（約3m）、幅が5尺（約1・5m）、ただし

ヒレからヒレまでは9尺という大きさがだったようです。また、絵以外にも多くの情報が書かれており、当時の呼び名はマンフクで、それが浮木うきぎ（マンボウの別名）のことであるということ、室の木の人が扇魚、大分の人は大ナンブク、九州ではマンボウ、西日本ではアバラボウと呼ぶなど、地域によって呼び名がさまざまであったことも分かります。その他にも、全身がさめ肌でイカの身に似ていることや、肉を切っても痛みがなく、海に浸っていると元通りになるといったことも書かれています。どちらの資料も絵入りで記録していることから、マンボウは当時の岩国の人々にとっても珍しい魚だったのだでしょう。



▲岩邑年代記に描かれたマンボウ



▲玖珂郡志に描かれたマンボウ

今回の史料

『岩邑年代記』…岩国藩における年代記で年代順に記録されている。多くの人に書き写されているが、今回の史料は嘉永5年に三浦伝右衛門が書き写したもの。

『玖珂郡志』…岩国藩士で国学者の広瀬喜運が著した地誌で、藩内の各村について細かく記されている。享和2（1802）年。

いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452
休館日：月曜（祝日の場合はその翌日）

岩国市 人口・世帯

人口 142,313 人【前月比 +250人】 男性 67,370 人 女性 74,943 人

世帯 66,797 世帯【前月比 +249世帯】 ※外国人人口を含む（平成26年5月1日現在）

交通事故発生件数 4月分事故件数 47件（187件） 死者数 2人（4人） 傷者数 53人（221人）
※高速道路発生分を除く ※（ ）内は平成26年累計

広報テレホン 休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎231234

目の不自由な人へ 「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎295016 FAX213337